交換留学生より

「ロータリー青少年交換と他者尊重の態度」

2015-16年度 交換留学生
荒　幹彦

私にとってロータリー青少年交換（以下、青少年交換）は、私自身の多様な文化・人々への態度の根幹を作ってくれた。つまり、自分とは異なる他者を、その人の視点から理解し、さらにその価値観を自分のものにしようとする姿勢だ。青少年交換以降、旅行や留学、就業で15か国前後の国を訪れたり、計3年ほど海外で暮らしたりしたが、今でもその経験は特有かつ特別であり続けている。その理由は、青少年交換にはたった一人で、そして15－18歳という年齢で参加することにあると思う。

青少年交換に一人で参加することは、日本の親や友人と離れて一人で暮らすことだけを意味しない。派遣先のスウェーデン高校では自分が唯一の日本人だった。私はこのような環境では、自分がスウェーデンの言語や文化を学ぶ以外友人を作る術はないと思った。この自分が今まで知らなかった習慣や価値観を理解して自分のものにしようとする態度は、他者理解に不可欠なものだと考えるが、これは青少年交換以外の経験では十分に得られないと思う。なぜなら、保護者や他の日本人がいたり、他にもたくさん留学生がいてそのコミュニティに属したりしていれば、そこがComfort Zone（自分にとって居心地の良い環境）になってしまうからだ。その意味でこの態度は、私が後に経験した大学での海外留学・就業では得ることができないものだと思う。

また、高校生という若さで青少年交換に参加したことも先述の態度形成にとって重要だった。なぜなら、この年齢の私はある側面で先入観が今よりもなかったからだ。当時よりも社会の色々なことを学んだ今、良くないと分かってはいても意識的または無意識的に人々をその社会的属性で判断してしまっている自分がいることを否定できない。当時は、様々な人とより人間的な関わりができたと思う。そのような年齢だったからこそ、私は相手の立場を自己内在化しようと努めることができたのだと思う。

現在も、国外の人に限らず、人と関わるときにはできるだけ当時の態度を思い出すようにしている。なぜなら、一人一人の他者の価値観を理解しようとする態度が、真の人間尊重だと思うし、究極的には平和の基盤をなすものだと考えるからだ。

「フィンランドの思い出」

2015-16年度　交換留学生
坂口 知生幸

2015~2016年(高校1年)にフィンランドに留学していました坂口知生幸です。

好きなモノに囲まれ、人との出会いに恵まれ、好きな国の文化や言語に触れ、視野を広げてくれ、新しい事への挑戦とそれを支え応援してくれた方への感謝の1年でした。私がフィンランドにいつか行ってみたい！から留学したいに変わったのは中学2年生の時。将来フィンランドに行ってみたいと話をしていると、それを聞いてくれた方がロータリークラブの方で留学したらいいと勧めてもらい実現出来ました。

フィンランドはフィンランド語が使われています。簡単な単語や文法は覚えて行ったものの聞き取れる訳もなく、初めフィンランド人の多くは英語で話しかけてくれましたが、自分の英語の出来なさを改めて実感。そこからは他の留学生達が楽しそうに英語で会話している中、私はフィンランド語で突き通そうとシフトチェンジしました。母国語を話してくれるのは嬉しいらしく、そこからは周りが嬉しそうにフィンランド語で話してくれるようになりました。私が理解できるまで簡単な単語を並べて話してくれたり、私のインチキなフィンランド語を一生懸命聞いてくれる家族や友達、先生が居てくれたから間違えても伝えよう！と安心して話せる様になりました。

そして半年が過ぎ3つ目のホストファミリーをロータリーの方が探してくれている時、2つ目のホストファミリーが「留学の最後まで家にいていいよ」と言ってくれました。3人兄弟の5人家族で大変な時期の中、家族全員が受け入れてくれた事がたまらなく嬉しかったです。家族のように輪の中に入れてくれたホストファミリーの温かさに今でも心温められます。語学の習得ももちろんですが、それ以上の経験や人との出会いがこの留学での宝物です。

留学という1つの目標を終えた今も、今後もやりたいことは挑戦し続けたいと思っています。そして留学に関わってくださった方々に感謝の気持ちを忘れずこれからもい続けたいと思います。これから留学される方には、日本を離れて日本の凄いところや有難みも感じながら、それぞれの留学先で充実した生活ができる事を祈っています！

ロータリークラブの皆さん本当にありがとうございました。

「札幌の思い出」

2016-17年度　交換留学生
ユリウス・ストリック

皆さんこんにちは。Julius Stryckと申します。2016-2017ロータリー交換留学生として札幌に住んでいました。ホームクラブはドイツの1850地区のWesterstede Rotary Clubでした。ホストクラブは札幌大通公園ロータリークラブでした。

留学から帰ってきてもう5年ぐらいが経ちました。今振り返るとあの時のいい思い出がたくさん残っています。その大きな理由はホストファミリーでした。私は一年間の大部分、小笠原肇さんと悦子さんの家に住んでいました。ホストファミリーはとてもやさしく、自分の息子みたいに扱ってもらって私は幸せでした。たいてい朝晩一緒にご飯を食べたり話しをしたりしました。そしてホストファミリーが私をたまに温泉やドライブや旅などに誘ってくれました。10代に海外留学をした場合は安全な所があるのは非常に重要だと思いますので、私にとってそういうホストファミリーであってよかったです。ほかの留学生も私の経験と似た経験をするといいと思います。

学校の生活もかなり良かったです。私は静修高校に通っていました。日本に来る前にあまり日本語を話せなかったので初めは簡単な会話をすることも難しかったです。それでも静修高校の生徒たちは私と話してくれたり、遊んでくれたり日本語を教えてくれたりしました。静修高校にはユニバーサル科があって、そこに通っている生徒たちはとくに海外に興味があったのもよかったと思います。週3回ぐらい学校の先生から日本語授業をうけたのも良かったと思います。普通の授業があまりわからなくてちょっと辛い時もありましたが、普段は喜んで学校に行って授業をうけて美味しい弁当を食べて部活をしてうちに帰りました。

ほかの留学生とのつながりも留学の大事なところだと私は思います。やはり留学生はいろんな国々から日本へ来て同じ経験をたくさんして、お互いの気持ちがちょっとわかるようになります。それでいい仲間になれると私は思います。私の場合もそうでした。特にロータリーが留学生のために計画した旅はなまらよかったです。登別温泉などで留学生やロータリアンやRotexの人たちと一緒に楽しい時間が過ごせました。2017年からのロータリー交換留学プログラムはどうだったかわかりませんが、そういうイベントを将来にも開催してくれると留学生は絶対に喜ぶと私は思います。

私の留学についての考えや思い出は私の下手な日本語でまとめるのは難しいですが。つまり、私は札幌に留学をしてとてもよかったです。将来にもたくさんの留学生が北海道に来てほしいです。きっといい経験になりますので。そして日本人もたくさん海外に留学をしたらいいと思います。私のホーム地区1850地区は毎年たくさんの留学生を受け入れるのでドイツにも来てくださいね。